

概要及びコンセプト

- 「大人編」「子供の発熱編」「高齢者の骨折編（マンガ）」の3種類のWebサイト及び冊子
- 「**医療DX編**」を追加し、都民にわかりやすく、親しみを持ってもらうため、**マンガ版**で作成
- 医療DXのメリットがわかりやすいストーリー構成**
- 冊子は区市町村や保健所、地区医師会、医療機関等に配布



構成(案)

- ①はじめに
 - ・医療DXの目的や意義（平易な言葉で）
- ②医療DXチェックリスト
 - ・「**医療DXが自分の生活にどう関係するか**」を**考えるきっかけとしてのツール**
- ③生活の中での活用例（3例程度）
 - ・次ページ以降参照
- ④Q & A
 - ・スマホがなくても使える？ ・個人情報は大丈夫？ 等
- ⑤用語集
 - ・電子カルテ ・オンライン診療 ・マイナポータル 等
- ⑥参考資料・リンク集
 - ・医療DX東京ナビ（仮称） 等
- ⑦アンケート（ウェブ版）
 - ・冊子を読んで意識がどのように変わったか 等



■ 医療DXチェックリスト（イメージ）

質問（例）	はい	いいえ
医療機関に行くのが負担に感じる ことがある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
待ち時間が長くて困ったことがある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
何度も同じ病状説明をするのが負担 に感じることもある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
検査結果や処方箋など紙の書類の 管理が面倒だ	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
家族と通院や薬のことを共有できると 安心だ	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
離れて暮らす家族の健康状態が気になる	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ

○ストーリー例（1）【オンライン診療】

今後、「医療情報に関する理解促進委員会」等の意見を聴きながら作成

①導入・困りごと

- ・患者（高齢者）は慢性疾患（高血圧）を抱えており、定期的にかかりつけ医を受診する必要があるが、公共交通機関を乗り継いでの通院が負担
- ・天気が悪い日はなおさら

②医療DXとの出会い、不安と疑問

- ・（かかりつけ医を受診して）患者「最近、身体の調子が悪く、定期通院がけっこう辛くて。」
- ・医師「当院はオンライン診療にも対応可能ですよ。」
- ・患者「聞いたことはあるけど、受診の仕方がわからないし、ちゃんと診察してもらえるのか不安もある。」
- ・医師「対面診療が必要と判断したら、速やかに切り替えることができますよ。受診方法もアプリを登録するだけなので簡単ですよ。」→（受診の流れやオンライン診療の留意点を説明）

③実際に利用

- ・（後日、自宅でオンライン診療で受診する様子）患者「すごく便利！」、「対面診療に切り替えることができるのも安心！」

④生活の変化

- ・対面診療とオンライン診療の適切な組合せにより通院負担が軽減され、心身が楽になった。
- ・花粉症の時期は通院が辛いけど、オンライン診療で薬を処方してもらえると便利。今度、かかりつけの耳鼻科の先生に相談してみよう。

○ストーリー例（2）【web予約システム】

今後、「医療情報に関する理解促進委員会」等の意見を聴きながら作成

①導入・困りごと

- ・**子供の発熱**で医療機関を受診したいが、**予約電話がなかなかつながらない**。やっとつながったら**予約が埋まっている**。
- ・**待ち時間が長い**けど、子供は長時間おとなしく待てず騒いだりするので、周囲の視線が気になる。待ち時間が長いと周りからの感染も心配だな。

②医療DXとの出会い、不安と疑問

- ・保育園のパパ友が「**スマホで予約できて、順番待ちシステムで診察状況が分かる診療所を受診したら医療機関での待ち時間を減らせた**。」と言っていた。
- ・近所の〇〇診療所はどうだろう？ とりあえずスマホで〇〇診療所のホームページを見てみよう。おっ、スマホで予約を取れるみたいだぞ。次子供が発熱したらここを受診してみようかな。

③実際に利用

- ・アプリをダウンロードするだけか。簡単だ。
- ・すぐに予約できた。順番は12番だ。今は5番で、あと1時間ぐらいはかかりそうだから1時間後に行こう。それまではテレワークにして、子供にはお気に入りのアニメを見ててもらおう。
- ・**診療所に着いてから5分で呼ばれて診察**。子供も短時間なのでおとなしく待てた。**すごく便利！**

④生活の変化

- ・**院内での待ち時間が短くなって手取り時間が増え、感染の心配も軽減された**。
- ・今度、子供の予防接種をしないといけないけど、この医療機関でやろう。

○ストーリー例（3）【医療情報の共有】

今後、「医療情報に関する理解促進委員会」等の意見を聴きながら作成

①導入・困りごと

- ・一人暮らしの親から電話がかかってきた。話を聞いても、病状やこれまでの治療内容がよく分からない。
- ・近くに住んでいたら一緒に行けるのに・・・。

②医療DXとの出会い、不安と疑問

- ・かかりつけ医「手術が必要になると思いますので、病院を紹介しますね。病院とは医療情報を連携しているので、これまでの検査結果や治療の情報を共有できますよ。」
- ・患者「医療情報の連携や情報共有でどういういいことがあるんですか？」
- ・かかりつけ医「患者さんが診療情報提供ができあがるのを待って、取りに行く手間がなくなりますし、飲み合わせの悪い投薬を避けるですとか、必要な分だけ検査すればよくなるので患者さんの負担が減らせますよ。」

③実際に利用

- ・病院医師「（かかりつけ医の検査画像を一緒に見ながら）なるほど。こういう病状でこういう治療をしてきたんですね。じゃあ今後の治療方針はこうして、この部分はもっと情報が必要ななのでこの精密検査をしましょうか」
- ・患者「何回も同じことを説明しなくて済むし、大事なことの伝え忘れも心配しなくていい。細かい検査結果も共有してくれてるから、病院での検査や治療も納得できるし、安心だな。」
- ・患者「家族にもこういう治療をするって説明したいのですが、何かいい伝え方はありますか。」
- ・病院医師「患者さん、ご家族にも治療経過を共有できるアプリもありますよ。」

④生活の変化

- ・（アプリをダウンロードし、治療経過を確認する家族）「治療の内容や経過がわかるし、本当に安心ね」
- ・患者、家族、医療機関で診療情報を共有することで、質が高く安心な医療につながった。